

愛道

第94号

発行・平成19年9月1日

社会福祉法人 足羽福祉会

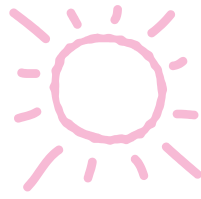
今号のテーマ
「喜び」



- ・「きらく楽」始めました（足羽利生苑）・・・・・・・・・・2・3ページ
- ・「ぼくがんばっているよ!!」～雄ちゃんの成長記～（足羽学園）・・・4ページ
- ・書を通して心をつなぐー習字クラブー（足羽更生園）・・・・5ページ
- ・子どもからもらう喜び（足羽東保育園）・・・・・・・・・・6・7ページ
- ・－敬老の日特集－ 強さと優しさにありがとうの思い（愛全園）・・・・8・9ページ
- ・就職までの道のり ～就労移行支援を通して～（足羽ワークセンター）・・・10ページ

デイサービスでの
焼き鳥の様子です。
焼きたての焼き鳥は格
別です。屋外で食べる
とまた一味違います。
（足羽利生苑）

始めました



平成十八年、介護保険法の改正により新たなサービス体系が確立し、地域密着型サービスが創設されました。それにより地域の特性に応じた多様で柔軟なサービス提供が可能となりました。

足羽利生苑では、認知症対応型通所介護として、デイサービスセンター「きらく楽」を平成十九年四月にオープンしました。今号では、この「きらく楽」を紹介します。



「きらく楽」はどんな所？



少人数で家庭的な空間



縫い物に集中しています

「きらく楽」は、定員が少人数に設定されており、利用者の方同士や職員が、より親密にかかわれるようになっています。人数が少ないため、顔なじみになりやすく、お互い家族のようにのんびり過ごしてもらうことができます。親しい友達とのかかわりは心の安定につながります。

個別対応

対象となる利用者の方のこれまでの生活と現在の生活を大切にして、活動には得意とすること・好きなことを取り入れています。これまで仕事でしてきたこと、趣味・特技などがあげられます。

本人やご家族からの話を基に、その方の望む活動を見つけて出し、行ってもらっています。

在宅生活につながる支援

役割をこなしていただくことにより、自宅での行動にも変化が現れるように支援していきます。

その方がこれまでの生活で培ってきたものは、頭や体にしっかりと残り残っています。何気ない日常生活の行為をしていただくことで、そういった過去の記憶に働きかけ、刺激を受けてもらいます。そうすれば、頭や体がいろいろなことを思い出し、それぞれの方がその人らしい役割を持って、自宅での生活を送ることにつながっていきます。

役割を持ていただく

利用者の方には、「きらく楽」での役割を持ていただくようにしています。例えば、ごはんをよそう、洗濯物を干すなどです。

以前は主婦として家事をこなしてきただけでも、現在は家庭での役割が少なくなったという方もいます。そういった方に、ここで役割を持ていただき、それぞれの方に「きらく楽」を創りあげてもらっています。それは、かつての生活を思い出す刺激と意欲につながります。

「秋」



島津さんの作品の一部です。他にもまだまだたくさんあります。



絵が得意な島津さん。熱心に絵をかいています。

島津さんの作品

秋にはいろいろな楽しみ方があります。芸術の秋もその一つではないでしょうか。今回は利用者の方の創作活動の様子を紹介します。

芸術の秋

足羽利生苑編

秋

足羽福祉会



丁寧に花を生けている最中です

「きらく楽」

ある利用者の方の場合

現在、「きらく楽」を利用して
おられるある女性の方の
活動の一場面を紹介します。

この方は、これまで仕事で「洋裁」をされてきたとのことなので「縫い物」をしていたに
いています。昔から針仕事を
していたということもあり、自
然に手が動いて、いきいきと
ランチョンマットを作ってお
られます。他の利用者の方や職
員とテーブルを囲み、昔話や
世間話をしながら、和気あい
あいと縫い物をされています。
また、現在は家庭で困難に
なってきた調理を、職員と一
緒に無理のない範囲で行って
いただいています。職員がそ
ばで一つ一つの動作を声かけ
することにより、調理の仕方
を思い出してもらえます。そ
のとき調理したものを、昼食
時に他の方に振る舞うことも
あります。

食事の時間になると、皆さん
と一緒にお茶を入れたり、ご飯
をよそったりしていただき、家
庭的な雰囲気の中で役割を持っ
て過ごしてもらっています。
ご家族からは、家では何も
しなくなっていたのに、デイ

サービスに通うようになり、
洗濯物を洗濯機に入れたりす
るようになったと喜びの声が
聞かれるようになり、少し自
分を取り戻されたように感じ
られます。

今後の展望

「きらく楽」はその名のとお
り、お年寄り同士、職員と共に
気楽に楽しく過ごしていただ
ける居心地の良い場を目指し
ています。そして、利用者の
方にいろいろなことを体験し
ていただき充実感を得てもら
いたいと思っています。「楽し
かったな」「また明日も来たい
な」と思っていたただけるよう
な居場所にしていきたいです。

今後はよりいっそうご家族
とのコミュニケーションを密
にし、ご家族と施設が共にそ
の方を支えていける体制を作
っていきたくと考えています。
これからも皆さまの要望にお
答えしていくために、さまざ
まな活動を提供して参ります。
「きらく楽」が利用者の方
の憩いの場として、皆さまの
笑顔で満たされるように、職
員一同努力して参ります。

「きらく楽」職員一同



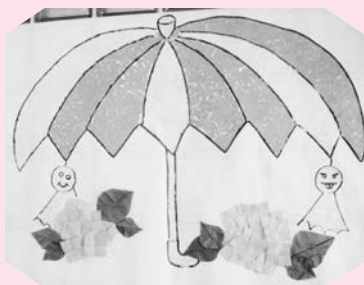
これからの超高齢社会では、
認知症の方に対する支援がま
ず重要です。この「きらく楽」デイサービ
スもその一つであり、認知症
の方がその人らしく生活する
ための中心的役割を持つ施設
となることを目指しています。
足羽利生苑では今後とも皆
さまのご意見を傾聴し、地域
に根差した、地域の皆さまに
信頼される福祉サービスを提
供していきますので、よろし
くお願い致します。

足羽利生苑デイサービスセンター

生活相談員 錦織 郁裕

- 開所時間
8:30～17:30(月～土・祭日)
- 連絡先
福井市柁野町20-7
TEL 0776-41-3121
- * どんなことでも
お気軽にご相談ください。

「秋」



力を合わせてすてきな作品を
完成させました。

いかがでしたか。皆さんも
いろいろな秋を満喫してお過
ごしてください。



いよいよ貼り付けです。
色鮮やかに貼っていきます。



色紙をちぎって準備です。
細かくちぎってくれています。

ちぎりの絵作品

ぼく がんばって いるよ!!

～雄ちゃんの成長記～



平成十七年八月一日、元気で可愛らしい小学一年生の男の子が足羽学園に入所してきました。今回は入所二年目を向かえるにあたり、成長を目的の当たりにしたお母さんの思いが届けられましたので紹介します。



じょうずにすくえてるね!!

足羽学園でお世話になり今年の八月で二年になります。入所前は、自分でできることが少なく何をすることも手助けが必要で、雄慈とのコミュニケーションがうまくとれない不満やいらだち、焦りなどであまり褒めてあげることができませんでした。

入所してから自分の思いをうまく伝えることができず、職員の方やお友達に噛みついたり引っかけたりとひどい時期があり、皆さまにはご迷惑をおかけしたことがありました。

その後、職員の皆さまの支援により徐々に噛みつきもおさまリ、食事のときにはスプーンで上手にすくって食べたり、食べられる物も増えてきました。歯磨きも歯ブラシを上手に動かしながら磨くことができ、トイレへの声掛けにも応じおしつことができるようになりました。

一人でできることが増えてきました。

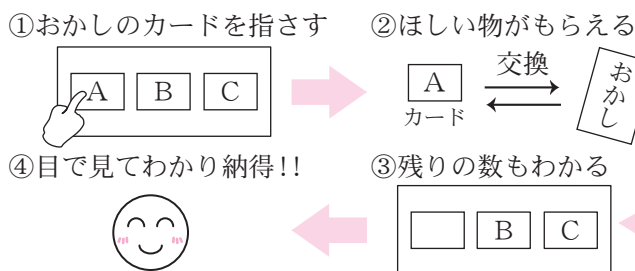
帰省しても自分から進んでやろうとする姿を家族みんなが見守ることができ、できたときには褒めてあげ、それに対して嬉しそうにする様子に感動しています。これも職員の皆さまに温かく支援していただいたているおかげだと感謝しております。

また、今までにはなかったこととして、誰かの膝の上に座ってきて甘えてくるようになったり、ボールで姉や兄たちと楽しそうにしていたりする姿も見られるようになりました。

先日、帰省のためお迎えに行った際、玄関に同じ学校で同年の女の子に「じゃあね。雄慈君バイバイ」と声をかけられ、その子にタッチをしてバイバイを伝えにいきました。何気ないやりとりでしたがとても温かみを感じました。

今後、成長と共にいろいろな問題が出てくると思いますが、職員の方と連絡を取りながら対処し、成長を見守っていかれたらと思っています。どうぞよろしく願います。

《足羽学園での取り組み》～思いを伝えよう～



親に甘えたい盛りの雄慈君が、足羽学園での生活を通して、少しずつ成長しています。家族の思い、職員の支援、そして雄慈君自身が自分でできたという自信が、きつとさなる成長への土台になると思います。これからも、雄慈君の成長した姿をお母さんと一緒に笑顔で見守っていきけるように支援していきたいと思っています。

足羽学園編

秋の食べ物ベスト5!

『食欲の秋』にちなんで、利用者の方々に好きな秋の食べ物と、その理由を聞いてみました。



一位 『ぶどう』

七票

・たくさん食べている感じがするから。

二位 『なし』

五票

・ジョリジョリとした食感が好きだから。

三位 『りんご』

四票

・ジュースが好きだから。

四位 『みかん』

三票

・甘くて美味しいから。

五位 『さつまいも』

二票

・おならがでるから(笑)

おいしい秋の味覚がたくさんでてきましたが、食べ過ぎには皆さんくれぐれも注意してくださいね!



足羽更生園では週2回クラブ活動を行い、利用者の方それぞれが余暇を楽しんでいます。
今回は習字クラブについて、講師の小林信恵先生にお話を伺いました。

これまで障害を持つ人との交流のなかった私が、初めて足羽更生園を訪問したときの衝撃は大きく、今も印象に残っています。利用者支援スタッフの苦労や、障害に対する関心、利用者の方々の環境や支えている家族の方々など、さまざまな思いが、習字クラブの講師をお引き受けする決意を後押ししてくれました。

6人のメンバーそれぞれの個性に慣れ、お互いが自然に接することができるようになるまでに少しの時間がかかりました。「書」を通して障害を持つ人とのかわりとなる、経験がないだけに今も不安です。何年もの間、週2回のクラブ活動を通して習得されたことを基にもっと「書」の技術を向上させるにはどうすれば良いのだろう。回を重ねるごとに思いは強くなるのですが、障害者に対する知識のない私は暗中模索です。しかし、一般的な「書」の表現に対する評価の概念を広

く大きな範疇でとらえると、もうすでに、彼らの書がとても魅力的です。きだときが付き、明るい気持ちになり嬉しくなりました。そして文字を正しく美しく表現する習字としてではなく、見る人の感性、情感に訴える芸術の「書」としてとらえてみると、とても素晴らしいということに気が付きました。



大島さんの書は文字ではなく、前衛書である。多様な表現で楽しい。「晴れた日の私の心」？「草原のそよ風」？イメージは広がる。彼女はニコニコしながら、リズムを取りながら、楽しいうれしいの極致の表情である。



近江さんはなかなか筆を持つてくれないのだけれど、気分の乗ったときの書は、控えめな造形に空間の取り方が素敵で、文字の意味のイメージを無限に広げる力がある。

書を通して心をつづる

ー習字クラブー



山下さんの書は力強い。見る人の心をひきつけるパワーがある。デ



尾野さんの書は、篆書のよきな線が特徴で画数の多い文字の曲線、直線を正確に書き、好感度満点。

フォルメされた大胆な造形はエネルギーにあふれていて彼の個性そのものだと思う。

安達さんの書の一見弱々しい線からあふれる優しさ、いやしの造



形は、見る人をほのぼのとなごませてくれる。



宮越さんの左右に開く線のびのびした行書風の書は揺れるようなリズムの中に自由な開放感があつて、おおらかだ。

足羽更生園編

＊秋の楽しみ(利用者)＊

「朝倉遺跡祭りに行くのが楽しみです」

「昔はよく秋に山登りをしたので、久しぶりに登ってみたい」

＊秋の思い出(職員)＊

「小さい頃、家族は稲刈りが忙しく、なかなか帰ってこないし、外はすぐに暗くなつて怖いし、寂しかった思い出がある」

「軽井沢に行った帰りに、浅間山のふもとを通って帰った。山の斜面が一面、紅葉で真赤に染まっていてとてもきれいだった」

「秋に結婚したので、思い出深い」



私の鏡（0、1歳児）



大好きな保育士に抱っこされニコリ

保育士の私が足をぶつつけ、思わず「痛い」としゃがみこんだたん、子どもたちが駆け寄ってきて「大丈夫？」という表情で「いいこ、いいこ」と頭を撫でてくれ、気が付くと髪の毛がぐちゃぐちゃになるほどでした。子どもたちの優しい気持ちが伝わり、痛いの忘れぎゅっと抱きしめていました。



ママ、みててね

日頃、何げなく言葉にしていることやかわっている自分の姿が、やがては鏡に映し出され戻ってくるのだと改めて知らされました。愛情いっぱいのかかわりを大切にしていきたいと思います。

子どもからもらっ喜び

感性に感動（2歳児）



あっ！セミだ!!

「夕日を見て『きれいなね』とうつとり見つめているKを見て涙が出そうでした」
（連絡帳でのKちゃんのお母さんからのコメントです）



ここまで登れるようになったよ

このコメントを見て私たち職員も胸が熱くなりました。足羽東保育園の周りにはたくさんさんの自然があり、自然と触れ合う機会が多いため、子どもたちはその美しさや変化にとても敏感です。桜が散る様子を見て「雪こんこん、きれいなね」また、空を眺めて「あつ、ひこうき！雲いっぱい、すごいね」と自分の感情を上手に表現しています。それと共に一人ひとりの感性もとても豊かに育っています。

K君のお母さんの他にも「最近よく『〇〇きれいなね。すごいね』と自分の気持ちを話してくれるようになりました」とのうれしいコメントを頂いています。

ご家族の方々と、子どもたちの成長を喜び合うことが何よりうれしいひとときです。



たくさん遊んだ後の給食おいしい♥

＊食欲の秋
給食室からのおいしくおいしく「早く食べたい」と待ち遠しい様子。給食の時間は「おいしいね、おかわりしよう」とお腹も心も満足です。

「秋」

＊紅葉の秋

実りの秋。足羽東保育園の子どもたちもさまざまな面で心身ともに豊かに育っています。

「美しい日本」と言われる時代。保育園の周りも色とりどりの紅葉が見られ、それを見ながら「きれいなね」と子どもたち。美しいと感じる豊かな心も育っています。



足羽東保育園編

心がつながる瞬間 (3歳児)

手先が思うように動かず、ボタンがけに悪戦苦闘していたBちゃん。ある日、ボタンがすつと通り、できた喜びを「せんせい！」と伝えに来てくれました。「上手にできたね」と二人で手を取り、思わず飛び跳ねてしまうほどの感動を共感していました。

また、自然あそびでも感動や喜びがいっぱいです。草の中に隠れていた虫をそつと手の中へ入れ、遠くから走ってくるAちゃん。大事件が起きたかの表情を見せ「ほらっ」とうれしさあふれる笑顔で手の中の宝物を見せてくれました。



Sちゃん おもしろいね!!
Nちゃん うん。たのしいね。

遊びの天才 (4歳児)

物を創り上げるのが上手な子どもたち。友達と「家を作ろう」と話し「ここはこうするの」「こっちは○○しよう」など自



“元氣一番バン!”
音楽に合わせて楽しく踊ります

た。「わつすごい！」と感動。発見した喜びを分かち合う瞬間は、心と心が通じ合い、喜びもひとしおです。

みなさんは生活の中でどれくらいの感動や喜びに出会っていますか。誰かと共感する喜びや日常の中で見つけた感動は日々の生活を楽しく、豊かにしてくれるものです。

今回は、足羽東保育園の中で見つけた子どもや保護者、職員の喜び、感動についてお伝えします。

分の思いを伝えたり、一緒に考えたり、また、友達とイメージを共有しながらじっくりと一つのを作り上げていきます。みんなで作ることで、できあがった喜びと達成感はとても大きく「先生、できたよ」「やった〜」とうれしそうです。

そんな創造力豊かな子どもの発想や喜びあう姿に、保育士も大きな喜びをもらい、その喜びがまた子どもに返り、子どもの満足はどんどん膨らんでいきます。

子どもは遊びの天才で、子どもたちから毎日のように喜びがわき上がっています。その喜びを日々共感できることを幸せに思っています。



仲よし2人組。いつも一緒

普段の生活の中で、見え隠れしていたことが子どもたちと一緒に過ごすことで大きな感動や喜びとして感じられるようになりました。保育士として、人として成長していける素晴らしいさが分かり、子どもたちに日々「ありがとう」と感謝しながら共に喜び合い、成長していきたいと思っています。

また、一人ひとりの喜びを家族の方や職員、みんなに広げ、心温まる関係を築きながら、豊かな生活を送りたいと思います。

「秋」

*スポーツの秋

春から子どもたちはマラソンをがんばっています。2、3歳児は走ることを喜び、4、5歳児は最後まで力いっぱい走ろうとする忍耐力や体力がつき大人顔負けのスピードで走れるほどになりました。0、1歳児もテクテクテクと歩くことを楽しんでいます。



風を切って走れ!!

*芸術の秋

子どもは形にとらわれることなく自分の気持ちを画用紙の中に表現します。自然の中で思い切り遊んだり、散歩や水遊びなどの体験を重ねるたびに、子どもたちから芸術的な作品が生まれてきます。



「そとでみつけた
バッタやよ!」
(Rちゃん 3歳児)

優しくに がとうの思い



かあちゃん、敬老の日おめでとございます。物心ついたころから「かあちゃん」と母親でもないのに、そう呼んでいましたね。でも、私には母親と同じくらい身近で大切な存在でした。そのことに今も変わりはありません。

人生にはいろいろな喜びや悲しみがあります。今年の三月にかあちゃんが脳梗塞で倒れたとき、私の心は深い悲し

かあちゃんからもらった喜び

みに包まれました。元気に回復してくれた今、悲しみは大きな喜びに変わりました。

これまで、私は自分が毎日生きていることを当たり前と考えてきました。しかし、これほどありがたいことはないのだと、かあちゃんを通して心に深く感じるようになりました。

入院以前は、家に遊びに行くたびに「元気やったけのお？」



お孫さん達と一緒に…山本さん

頑張りの母さん

私の母は、現在九十七歳で、明治・大正・昭和・平成と、激動の時代を乗り越えてまいりました。不幸にも、四十五歳で夫に先立たれ、女手一つで私たち五人の子どもを立派に育ててくれました。終戦後の食べ物のない時代、自分が口に入



外出先にて家族と一緒に…樋口さん

れなくても私たち子どもに与えてくれましたこと、決して忘れません。母だけではありませんが、明治生まれの方は頑張り屋です。畑仕事・お裁縫・ゲートボールなど、九十半ばまで骨身惜しまず頑張っていました。

愛全園さんには三年前からお世話になっています。デイサービス・ショートステイと喜んで通っております。当時はまだ元気で、習った習字やマレットゴルフの賞状を額に飾っております。

「元気ばあさん」で通っていた母が、脳梗塞で倒れるなんて夢にも思いませんでした。昨年の二月十三日のことでした。前日までは、両手を差し出すと手をとって立つことができたのですが、急に立ち上がるができなくなりました。母も何とか立ち上がろうと頑張るのですが、

左足がどんなに頑張っても動かなかったのです。そのときは私も涙が止まりませんでした。もう、これで歩けないのかと思うと、かわいそうでたまりませんでした。

二カ月ほど入院し、その後は家に帰り、一年ほど妻と二人で介護しました。初めての介護です。ケアマネージャーさんにもアドバイスをしていたいただきましたが、言葉では言い表せないほどに大変なことでした。

今は、不自由な体になりましたが、愛全園さんにお世話になり、夕食のひとつを母と共に過ごしております。母にはいつまでも永生きてほしいです。

樋口よし子様へ

息子の幸博より

愛全園編

愛全園の利用者の方に「秋といえど…」という質問で、それぞれの秋の楽しみを聞いてみました。

・秋といえば、クリ拾い。
子供の頃はよく、近くの山に家族みんなでクリ拾いに行きました。自分で拾ったクリはおいしかった。つまみ食いをして親によく怒られたのを覚えています。

・秋といえば、モミジ。
毎年、紅葉を見に出かけます。

・秋といえば、運動会。
昔は孫の運動会へ行き、応援したのを覚えています。



「秋」

—敬老の日特集—

強さと あり



頑張った六十二年

敗戦からいばらの道を歩んだ六十二年。父は戦死、一番心に焼き付いて忘れる事のできない大空襲。家は全焼で無一文になり、住むところを失って、母と幼い三人の兄弟とで実家に戻りました。しかし、長い間寝泊りすることもできず、叔父が住むところだけは探してくれました。それからが大変な苦勞の始まりでした。食料もなく、その日その日の



外出先にて笑顔の前田さん

生活が精一杯で、泣く涙も出なかったと母から聞いています。

その中で仕事も見つかり、毎日生活していくなか、同じ仲間たちと出会いました。田舎で生活している方が人一倍気を遣って言葉を掛けてくださり、家族四人で精一杯生きる喜びと一生懸命働く力を与えてくださいました。人と人との出会いはいかに大切か、また、人間として心の優しい、温かい人に恵まれ、本当に救われました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

月日が過ぎるのも早く、三人の子どもは、成人・結婚と順序よくでき、親の責任を果たし、その後は気楽に自分の人生を自由に楽しんで、友達と旅行に出かけていました。

現在、九十五歳になりました。特に悪い所はありませんが、足腰が弱く疲れやすくなりました。

親孝行は進んでできないですが、姉も顔を見せにきてくれ、毎日一緒にいるだけでいいかなと思っています。長い人生、生き抜いてきた母、いつまでも、命のある限り頑張っ生きてほしいと願っています。

前田スナ子様へ

息子の前田清より

と話しかけてくれて、お菓子やお茶を食べきれないくらい並べてくれたかあちゃん。今は、話すこともままならないけど、「生きていてくれてる」「そう思うだけで私にとってはとても大きな力になってくれています。」

十二年前、私が就職したとき、仕事帰りにかあちゃんの家によって、仕事の相談をする「ほうか、ほうか」と、ただただ聞いてくれたかあちゃん。本当にありがとうございます。子どもが生まれてから遊びに行っても、曲がった体を一生懸命起こし、あやしてくれたかあちゃん。ありがとうございます。

たくさん「ありがとう」があっただけど、かあちゃんの前では照れくさくて伝えることができませんでした。

かあちゃん、今、何を見て、何を考えて、何を思いますか。私はまた、子どもたちとかあちゃんに会いに行きます。これからも一日一日大切に長く生きてください。それが私の喜びです。

山本サダ子様へ

孫の寿美より

福井弁で、※1「元気だったかい？」という意味。※2「そうか、そうか」という意味。

“自分のことよりも、子どもたちのために”そうやって必死で生きてこられた家族を思う心。それを心で、体で感じ、今、大切なひとときを共に過ごされている家族の固い絆を感じます。長く、大変な時代を乗り越えてこられたからこそ、本当の笑顔。これからも、その笑顔にいつまでも会えますよう、お手伝いさせていただきます。

九月、敬老の日を迎えるにあたり、ご家族からの温かいメッセージを一部紹介しました。

「秋」



保育園との交流にて「大きくなあれ〜」

・秋といえば、サツマイモ。毎年、足羽保育園との交流で、サツマイモの苗植えをしており、今度の芋掘りが楽しみです。

・秋といえば、食べ物。私の家は農家で、米を作っています。やっぱり新米はおいしいですよ。

今回紹介したものは、ほんの一部ですが、今年は皆さんにとって、どのような秋になるのでしょうか。楽しみの多い秋になるといいですね。

平成十六年に足羽ワークセンターを終了された宮腰繁徳さんは、今年の五月一日に、同法人の介護老人福祉施設足羽利生苑に就職が決まりました。

今回は就職までのワークセンターの取り組みと、障害者就労の専門機関である、福井障害者職業センターからのお話を紹介します。

就職までの道のり

～就労移行支援を通して～

現在、障害のある方が就職する際、その職場に適応していくために、障害者職業センターのジョブコーチ制度を利用

用される方が増えています。

宮腰さんもジョブコーチを利用されましたが、よりスムーズにジョブコーチ支援に移行できるように、ワークセンター独自で約二ヶ月間事前支援を行ないました。今までの作業支援を通して、複数の作業をこなすことによる混乱、本人を受けとめる人間関係作りが不可欠と考えたからです。

実習に入るにあたり、本人が担当仕事の整理とサポートをさせていた。利生苑との打合せで本人の能力を考慮し、用務員として洗濯やシーツ交換、トイレ掃除などが挙げられました。また、サポート役には現場の上司と、本人が話しやすい職員が選ばれました。

仕事の内容を覚えるのはもちろんですが、仕事には一日の流れと時間や回数が決まっています、それをこなすのは困難なことでした。以前従事し

宮腰さん ひとりのとき	
出勤 (①)	
エプロン着脱 (②)	ゴミ入れ (③)
入浴準備 (④)	入浴準備 (⑤)
エプロン着脱 (⑥)	ゴミすて (⑦)
シーツ交換 (⑧)	
食事のあとかたづけ (⑨)	

宮腰さんの一日のお仕事(一部)

洗濯物たたみは利生苑No.1です



ていた施設外授産では職員の声かけや、確認がありました。が、実習では単独で動かなければなりません。

そこで目で見て分かるように、一日の流れと時間、内容を記したカードを作成しました。自分でカードを見ながら、次は何をすればいいのか確認して行動していました。また、こまだった時にはサポート役の職員に話しにいけるようになりました。しかし、時間をみながらの行動ができないという課題を残してジョブコーチの方へ移行しました。

ジョブコーチ支援では事前支援の内容をふまえ、なお一層の職務遂行、困ったときの対応、対人関係でのふるまい方を場面に応じて定着を図っていただきました。また課題の時間による行動は、タイマー

を導入し、自らセツトすること、次の仕事に移行しやすくなったようです。このような取り組みを通して無事に就職が決まりました。

今回は本人、事業所、職業センター、ワークセンターが密接につながりあったからこそ、就労に結びつくことができました。今後、就労移行に当たっては利用者の方一人ひとりの特性を生かした支援を行い、サポート体制を構築し、一人でも多くの利用者の方が就職していけるよう努力していきたいと思っています。

ぼくのかまな仕事は、洗濯と清掃、それとシーツ交換です。おとしよりの人に「ありがとう」と声をかけてもらうと、とてもうれしい気持ちになります。

これから健康に気をつけて、一生けん命がんばります。よろしくお願ひします。

宮腰 繁徳

*ジョブコーチ
障害のある方と一緒に現場に入り、作業遂行上の援助や安定した職業生活の支援を行う支援専門スタッフ

※宮腰さんの就労に関して支援していただいた福井障害者職業センターのジョブコーチにお話を伺いました。

Q ジョブコーチ支援にあたって意識したポイントがありますか？

A 今回のケースはさまざまな関係者が本人を支える体制作りがされていて支援がしやすかったです。具体的にはポイントを絞った無理のない職務の整理、職務以前に本人との良好な関係構築、何かあった場合のフォロー体制がありました。

支援ポイントは視覚的情報を活用し、本人にとって理解しやすい、振り返りのしやすい支援を心がけました。

Q 本人さんへメッセージを頂けますか？

A やはり就労したいと言う強い気持ちがあったからこそ、就職できたと思います。今後も、元気に明るくお仕事頑張ってください。

できごとアラカルト

夏祭り



〔足羽利生苑〕

7月28日、足羽ワークセンターと足羽利生苑合同の夏祭りの様子です。皆さんとても楽しそうに過ごしています。

デイサービスそば打ち



〔愛全園〕

五月、そば道場にそば打ち体験に行ってきました。エプロンをしてまずは粉をコネコネ。あつという間に、細い麺から太い麺までいろいろなそばのできあがりです。ズルズルズルと美味しそうな音が聞こえます。この日のそばは、最高の味でした。

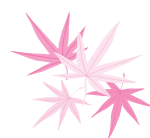
ロールサンド作り



〔足羽ワークセンター〕

七月七日、生活支援の調理実習にて、ロールサンド作りを行いました。みんなで協力し合い、楽しみながら作り、とてもおいしそうにできました。味も、もちろん◎です。

労働奉仕



去る五月三日、園児保護者の方々に労働奉仕にご協力頂きました。園庭の整備や畑づくり、遊具のペンキ塗りや点検などをしてくださり、子どもたちの大好きな園庭をますます楽しく安全な場所にして下さいました。

〔足羽東保育園〕



木製遊具に防腐剤を塗って下さいました

フレンピック大会



〔足羽学園〕

六月八日、福井運動公園で第二十七回フレンピック大会が行われました。お菓子釣り競争での一コマです。じょうずにつれたかな？

シャボン玉クラブ



〔足羽更生園〕

月二回、講師の野路さんのミュージックケア（音楽療法）を楽しんでいます。

みんなの広場



敬称略させていただきました。

☆すずらんの会☆

足羽学園・更生園に行った時に、利用者の方々が私たちと一緒に歌を歌ったり、踊ったりしてくれて、私たちはとても感銘を受けました。

十数年、毎年ボランティアに行っている、利用者の方でも喜んでくれているようです。他にもいろいろな施設を訪問しています。これからもよろしく願います。

代表 鍛田喜与美



手品をみんな真剣に見てるよ

♡ボランティアさんの声♡

足羽学園とはどんなところなのだろうか知ってみたい。そして、お手伝いをしてみたいと思っていました。

ちょうど一人の若者が福井教会へ来られてミサに参加しました。簡単にはありませんが、その方が足羽学園について教えてくれました。

二週間後、その方と一緒に足羽学園に行きました。玄関に入ったときにた

くさんの子供たちが集まって、遊んだり笑ったり、泣いたりしていました。とても懐かしく思いました。私の妹を思い出したのです。

これから足羽学園の子供たちと

一回でも多く一緒に遊んだり、笑ったりすることができるとを、そして、足羽学園の子供たちのために、神様にたくさんのお恵みを下さいとお祈りしていきたいと思えます。

シスターアシシア



優しい眼差しで見守るお二方

ある日、シスターアシシアより「私と一緒に足羽学園へ行きませんか」と声をかけられ、同行することになりました。

おりしも私たちカトリック信徒にとつては四旬節と申しまして、四十日間の苦行の一つに入っております。主司祭に課題として『愛の行いをしなさい』というテーマをお

おせつかったところでした。

だから私は恥ずかしいのですが、軽い気持ちで足羽学園に行くことにしたのでした。

二回、三回と子供たちと接していく度に、待っていてくれる子供たちと会うことが楽しみになったのです。

これから私たちは大きなことはできませんが、子供たちと接することにより喜んでくれる姿に喜びを感じ、そして自身の成長のためにも、一回でも多く訪問ができるように神様の力をお借りしていきたいと思えます。

竹原てる子



おいしそうでしょ!!

*ごまをふりかけてもおいしいですよ

- 〔材料〕
- ・ブロッコリーの芯
 - ・人参
 - ・ごま油、砂糖、醤油
- 〔作り方〕
- ①ブロッコリー、人参を短冊切りにする
 - ②ごま油で①を炒め醤油、砂糖を入れ炒める

ブロッコリーの芯とニンジンの金平





今回、援助を拒否されることの多い利用者の方とかかわり、戸惑いや本当にかかわっていきけるのか不安になりました。どのように声掛けをしたら良いのか、いつかかわれば受け入れてもらえるのかなどいろいろ悩みました。

拒否される毎日が続きましたが、徐々に笑顔が見られるようになり、とてもうれしかったです。また笑顔が見たいと思い、かわっていったのだからと思うと思います。

これからも、利用者の方の笑顔を見たいという思いを忘れずに、一人ひとりに合った介護を行なっていきけるように頑張りたいです。

愛全園実習生 辻岡 由紀



キッチンにて、おやつ作りをする辻岡さん



利用者の方と共に作業をする岸田さん(中央)

新人さんの声



四月から、ワークセンターの方と一緒に仕事をする事になりました。みなさんと楽しく働き始めて、早三カ月以上が経ち、少しずつ新しい環境にも慣れてきました。

以前も、知的障害を持たれた方の通所授産施設に勤めていました。五年近く勤めていたので「すぐにみんなの輪に溶け込めるわ」と、思っていたのですが、一人ひとりの個性を理解して支援していくことがいかに難しく、また、大事なことであるかを改めて知る機会となりました。

今後利用者の方や諸先輩のパワーをもらいながら、良い支援ができるように頑張っていきたいです。

職員 岸田 愛

夏物募集!!



もう着なくなった男性物の夏服(中間服)や短パンはございませんか? もしタンスに眠っている物や今年の夏で処分しようと思っている物がございましたら、是非とも足羽学園までご寄贈ください! よろしくお願ひします!



・服のサイズM(160)
・短パンのサイズM

TEL
0776(41)3120

足羽学園 山下まで

おばあちゃんのすてぶろ

簡単 窓ガラスピッカピカ

窓ガラスを磨くときには、古新聞で磨くと効果的です。それは新聞紙のインクがガラスのつやを出し、汚れも付きにくくしてくれるからです。

まず新聞紙に水を付けて軽く絞り、ガラスの汚れを取るように拭きます。その後、乾

いた新聞紙で乾拭きすると、ガラスがピカピカになります。簡単で経済的なので、試してみたいかがでしょうか?

